

もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 豊田和司

本号内容

1. インターハイ特集 (08/05-09)
深入山・恐羅漢・三段峡)
2. 第6回写真展 (09/16-21 NHKギャラリー)
3. 中国5県自然保護指導員研修 (09/27-28 深入山)
4. クライミングスクール① (09/07 三倉岳)
5. 岩稜歩きスクール① (09/21 奥匹見三ノ谷)
6. 机上講習 (09/28 三篠公民館)
7. クライミングスクール② (10/05 三倉岳)
8. 合同山岳救助訓練 (10/13-14 加坊山登山道)
9. 岩稜歩きスクール② (10/19 岩淵山)
10. 県民ハイキング (09/21 岩国山)
11. 県民ハイキング (10/18 高増山)
12. 岳連短信 (寄贈御礼、9-11月の予定)

1. インターハイ特集

インターハイ開催

副会長 村井 仁

全国高校総体（インターハイ）登山競技が、安芸太田町の恐羅漢山、十方山、深入山、三段峡を舞台に開催されました。中国5県で開催の「中国総体2025」の1競技です。

大会の正式名称は「令和7年度全国高等学校総合体育大会登山大会・第69回全国高等学校登山大会」です。

広島県でインターハイ登山競技が開催されるのは、昭和52年（1977年）以来48年ぶりのことです。

1 登山行動について

(1) 8月4日（月）

出場チームの受付が、開会式前夜の選手・監督の宿

舎である「グランドプリンスホテル広島」で13:30に始まりました。全国からの出場チーム数は、男子46チーム、女子45チームです。（栃木県の女子、岐阜県と沖縄県の男女は不参加、開催県は男女とも2チームが参加）参加人数は455名です。（チームは、学校ごとの選手4名、監督1名で構成。）受付業務は県内高校生が中心となって担いました。

15:30から「監督リーダー会議」が、ホテルと「戸河内ふれあいセンター」とをオンラインで結んで開かれました。主な役員は、前々日の2日（土）から、現地、安芸太田町に入り準備を行っています。

(2) 8月5日（火）

選手・監督は、朝、ホテルを12台の計画輸送バスで出発、開会式が10:00から「加計体育館」で開催されました。設営、運営は、主に県内高校生が担いました。昼食後は、「天気図作成」と、登山の知識を問う3つの「課題テスト」（ペーパーテスト：自然観察テスト、救急知識テスト、気象知識テスト）に、4名の選手が分担して取り組みました。

高校生の「登山競技」は、教育登山の一環で、正しく安全な登山を推進することを目的としています。公表されている審査基準は選手の目指す目標を明確に示しており、これに向けてトレーニングを積んでいくと、その成果として、より高得点を獲得し、目標達成できるよう工夫されています。具体的な審査項目は、「1 行動（体力、歩行技術）」、「2 生活技術（装備、設営・撤収、炊事）」、「3 知識（天気図、課題テスト、計画書、行動記録）」、「4 読図技術」、「5 マナー・自然保護」です。

その後、「幕営地」である「深入山グリーンシャワー

「多目的広場」に移動します。約100張のテントが、競技として同じ条件下で設営できる場所は、グランドのような場所に限られます。ここで3連泊となります。縦走登山を想定しているので、毎日、設営・撤収をし、テントは背負って登山行動を行い、翌日の設営区画は変わります。

16:00 から設営（幕営審査）が始まります。引き続き炊事で、こちらも審査員が巡回しての審査があります。選手は20:00 就寝です。大会中の登山行動は酷暑を避けて午前中に終了、そのため、起床時間は3:20です。一部の役員は、選手の体調不良など、夜間の不測の事態に備えて宿直勤務に入ります。



【写真1】5日 1746 幕営地】



【写真2】5日 1903 役員会議】

(3) 8月6日(水)

6:00 前、男子A隊のバス6台が牛小屋高原の駐車場に続々と入ってきました。行動役員はすでに集合済みですし、山中の定点に移動中の役員もいます。ここ数日、雨がぱらついたりして酷暑も多少、和らいでいるようです。全員で掛け声（今どきの「ときの声」）を上げた後、行動開始です。

この日のコースは、牛小屋～夏焼のキビレ～台所原平～恐羅漢山～旧羅漢山～獅子ヶ谷登山口～二軒小屋駐車場です。タイムレースではありません。大半の

チームがクリアできる「規定時間」が設けられており、この時間内に通過できれば、減点はありません。

男子A隊が出発する頃、女子B隊のバスも到着し、同様に行動開始です。選手の保護者や出場校関係者が何名かが、応援に駆け付け、出発を見送っていました。



【写真3】6日 0616 行動開始】

この日の行動は、一部体調不良者が出ては、順調に推移し、二軒小屋駐車場に元気にゴールしました。

この日、一つの決定がなされました。翌日にかけて、まとまった雨が予想されたため、幕営を取りやめて、予め設定してあった「戸河内ふれあいセンター」のアリーナに、選手を避難、宿泊させるというものです。水はけの悪いグランドは、すぐに浸水してしまいます。幕営地の「設営隊役員」が、移動して準備を行います。アリーナの床面にチームごとの区画を設け、ここで生活します。選手364名が密集した空間で過ごすこととなり、相当暑かったものと想像されます。建物内は火気が扱えないため、炊事は、外の駐車場などで行います。

(4) 8月7日(木)

一夜明けた幕営地、グランドには水が溜まり、運営用の仮設テントはフレームが曲がり、倒壊していました。どれ程の風が吹いたのでしょうか。周辺の雨量観測局の観測値を見ると、[最大60分雨量／総雨量]が、「深入」局で[15/38mm]、「横川」局で[26/57mm]、上流の「八幡」局で[47/98mm]でした。

この日のコースは、二軒小屋駐車場～獅子ヶ谷登山口～十方山～丸子頭～藤本新道～二軒小屋駐車場の予定でしたが、前夜の避難行動があり、行動開始が遅

れること、コースの状況などから、二軒小屋駐車場～獅子ヶ谷登山口間のサブザックによるピストン行動に変更となりました。

男子A隊のバス6台、続いて女子B隊のバス6台が到着し、止みかけた雨の中、雨具を付けた選手たちが、班ごとに出発していきました。



【写真4_7日0919行動前】



【写真5_7日1010行動開始】

前夜の避難行動に伴い、「戸河内ふれあいセンター」での設営、運営、撤収に奔走した「設営隊役員」は、日中は、幕営地の復旧作業を行っていました。特に、グランドの排水作業は、補助員の高校生も加わり、酷暑の中での手作業だったそうです。その作業の結果、選手たちは、支障なく幕営を行うことができました。

「設営隊役員」は大変な業務で、朝早くから夜遅くまで業務にあたることもあったようです。ただ、不満の声は聞いていません。先生方が熱心に動く姿を見てのことのようです。

(5) 8月8日(金)

行動最終日のコースは、まず、深入山です。東登山口から登り、周回コースを南登山口に下山します。審査はここまでです。その後、計画輸送バスで三段峡正面口に移動し、黒淵までの峡内を往復します。黒淵では、順番に渡船に乗りります。審査から解放された選手たちは、笑顔で景観を楽しんでいたそうです。



【写真6_8日0949黒淵渡船】

その後、「戸河内ふれあいセンター」での「解団式」後、宿舎の「グランドプリンスホテル広島」に移動します。翌日の「閉会式」は各チーム、ユニフォームでの出席なので、クリーニングを受け付けるのですが、洗濯袋の山が積み上がってきました。

(6) 8月9日(土)

「閉会式」は「戸河内ふれあいセンター」で行われます。地元勢の成績ですが、男子A隊は広島学院高校が1位(100.0点満点)、修道高校が15位(98.7点)、女子B隊はノートルダム清心高校が4位(99.5点)、県立広島高校が12位(98.4点)でした。特に「100.0点満点」は、全国でも、過去に修道高校が1度記録しているだけだそうです。

特筆すべきは、毎年、リタイア（途中棄権）するチームが複数発生していますが、今回は1チームもなかったということです。これは、選手たちが十分にトレーニングを積んで参加したことによる成果ですが、気象状況が適当であったことのほか、運営上の工夫の積み重ねが寄与しているものと思えてなりません。

選手たちに、この地の山々が良い思い出として刻まれて、再びこの地を訪れてくれれば良いと思っていま

す。

2 山岳S C連盟の支援状況

インターハイ登山競技の主催は、全国高体連、J M S C Aほかです。また、主管は、広島県高体連、広島県山岳S C連盟ほかです。準備、運営の実務は、広島県高体連登山専門部の先生方が担いました。山岳S C連盟も、出来うる限りの支援を行うということで臨んできました。

（1）役員派遣

大会当日、10名の役員を派遣しました。加盟団体や個人会員に協力を募ったところ、支援したい会員は多くありましたが、平日の開催ということで、仕事の都合が付かず、断念された方が多くありました。もう少し多く派遣できれば良かったのですが、致し方ありません。（48年前のインターハイでは、山岳連盟から51名の役員が参加しています。）また、その10名についても、多くは、事前の会議にも出席できず、登山競技が何かも分からぬ中での、いきなりの当日参加という状況でした。こうした役員が、この大会の意に沿って、十分に役割を果たせることができるよう、事前の情報提供や、当日の担当部門への取次ぎに注力しました。参加した役員に対して、高体連からは、状況に応じて、よく対応してもらったとの評価をいただいている。各自の経験や能力が、いかんなく発揮されたものと思っています。

役員のみなさまには、本当に、お疲れ様でした。

（2）ふるさと納税

登山競技は、他の競技とは違い、競技施設のない山中で行われるという特殊性があります。455名の選手・監督に加え、約250名の役員が携わります。バス輸送、人数に応じた仮設トイレの設置ほか、他の競技に比べ、多額の費用がかかります。費用の2/3は県、1/3は開催地の安芸太田町の負担と決まっています。日頃、私たちの登山活動のフィールドとしてお世話になっている地元に、少しでも財政支援になればと、運営経費の寄付となる、県教育委員会の「ふるさと納税制度」への協力を呼びかけました。多くの方に協力をいただきました。ありがとうございました。

（3）特製ポロシャツ

開催地の山をデザインした「特製ポロシャツ」の製

作、販売が企画されました。着ることで機運を盛り上げ、記念品にもなり、その収益が、公費で賄えない選手たちへの「おもてなし」費用（冷たい飲料やアイスクリームなどの配布）に使えるという、一石三鳥を狙ったものでした。安芸太田町教育委員会が当初の事務を担っていましたが、行政の本来業務ではないため、山岳S C連盟が事業を引き継ぐことになりました。準備期間中、多くの会員に購入、着用していただきました。ありがとうございました。

最後、大会中に、在庫一掃目的で、といつても価格は据え置きですが、全国からの選手にも販売しました。とても好評で早々に在庫が尽き、さらに追加で100着近くの予約注文を受け、後日郵送販売するという嬉しい悲鳴となりました。

3 インターハイで得られたこと

今回のインターハイは、その準備段階、そして本番段階と、高体連登山専門部の先生方には、大変な労力を費やされ、ご苦労をされていました。特に中心となつた先生方のそれは、察するに余りあります。ただただ「お疲れ様でした。」の言葉があるのみです。

当日役員の確保にも、大変なご苦労がありました。その結果、役員は、現役の登山部の先生、登山部以外の先生、退職された先生、高校登山部のO B O G、そして山岳S C連盟と、あらゆる伝手を頼って、多彩な人たちが集まりました。現役高校生も多く加わりました。この「人の繋がり」、「インターハイと一緒にやつたという繋がり」は、高体連登山専門部の財産であり、今後、様々な形で生かすことが出来るものと思っています。

4 私個人として

今回、私は、山岳S C連盟の窓口という立場、高体連への一部業務支援という立場、を担ってきました。準備段階から本番まで、様々な調整事項が頭の中を巡っていました。

また、後輩の現役大学生4名の窓口にもなりました。副班長の大学生4名は、牛小屋の山小屋に宿泊しました。夜遅く山小屋に帰つてからも、翌日の動きを確認し合つており、頼もしく思いました。役割を終えて広島に帰る時は「インターハイに関わって良かった。」と言つてくれました。これが、私が一番、嬉しかったこ

とです。

私もインターハイに関わって良かったと思っていました。ありがとうございました。

インターハイ支援の報告

副会長・指導部長 森本 覚

私は8月6日と7日に総務役員無線隊無線中継の担当で大会に参加しました。

インターハイ支援の事は予め聞いていましたので、2024年10月26日（土）に開催された第64回中国高等学校登山大会に視察を兼ねて参加しました。そこで何となく、登山競技の雰囲気を感じる事はできました。

その後、「ふるさと納税」や「ポロシャツ販売」などを通して、実施年度になった事を肌で感じていました。

本大会の安全対策会議については、日程の都合でなかなか参加出来ない状況が続きました。ですが第2回の時には既に無線中継を担当する事が決まっていましたので、7月19日（土）に行われたリハーサルにはなんとか日程を調整して参加する事が出来ました。

中継ポイントが恐羅漢山頂という事もあり、本部（いこいの村ひろしま）に早朝着で向かい、無線担当の先生から無線機を受け取り説明を受けた後に現地に向かいました。無事、登山行動開始までに山頂に着き、開局の準備を進めました。今回は早手のキビレの中継担当が不在の為、前半の台所原までの区間が特に電波状況が悪く通信できないポイントもありました。

通常のポイント通過の通信と救護通信が同じタイミングで入るとビジー状態になる事もあり、救護通信はチャンネルを変える必要性を感じました。それと、個人装備としては暑さ対策は考えていたのですが、この日は予想外に寒く雨具を着こんで過ごしました。基本的には移動しないで防虫対策が必要で、モスキートネットは必需品でした。通信時は電波を拾う為に移動する事もありますので、待機時はレジャーシートに座り込まず折りたたみイスが有ると便利だと感じました。その他細かな問題点もありましたので、リハーサルに参加して良かったと感じました。

8月5日（火）仕事を終えてから宿泊地（いこいの村ひろしま）に向かいました。無線担当の先生と打合せ

後に、無線機を受け取り就寝しました。

8月6日（水）登山行動開始前に山頂に着き、本部にテスト送信しました。天候の影響かリハーサルでは上手く通信できたデジタル簡易無線では通話が途切れ通話になりませんでした。IP無線機の方は感度良好で、本部との通信はこちらを使う事にしました。前回の反省からデジタル簡易無線は通常通信用と救護通信用の2台と、本部との通信用のIP無線機の合計3台を使う事になり、この中継局に2名を配置して頂いたので助かりました。

無線中継は伝言ゲームの中間なので、聞き漏らすと情報が途切れてしまうので緊張しました。早手のキビレにも中継担当が着任されたので、前半の通信もカバーできました。B隊最後尾のゴールの通信を終えた後に下山しました。

いこいの村ひろしまロビーにて夜、総務役員の会議で7日の予定が伝えられました。雨天対応でコースが変更になった為に、十方山山頂の中継局は不要となり、私は二軒小屋にて中継する事になりました。

8月7日（木）登山行動開始前に二軒小屋に着き待機しました。本部へデジタル簡易無線で通信しましたが応答なし。本日も本部とはIP無線で対応する事にしました。谷筋を歩く為か、行動隊が出発して暫くすると既に行動隊からの通信は聞き取れませんでした。総務副委員長の内藤先生が機転を利かせて藤本新道附近に移動されて中継局を追加されました。そこからは何とか行動隊とのデジタル簡易無線が通じた様で、我々は内藤先生がIP無線で本部と通信しているのを傍受してその日は終了しました。

今回参加するまでは、単純に聞こえてきた事を伝えれば良いと思っていましたが、電波状況により通信感度が悪い場合もありましたので、もう少し大会の流れを把握していれば、聞き取れない部分も想像できたのではないかと思われました。1日目に目の前を選手が通過した姿を見てやっとそれまでの通信内容が実感できました。現地の私と違い本部無線を担当された方は、選手の行動を目にしていませんので、通信内容を想像するのに苦労されたのではないかと思われます。

私は2日間のみの参加でしたが、貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。高体連登山専門部の

先生方をはじめ、大会役員のみなさま大変お疲れ様でした。

それでも歌おう
不完全だから」～「綺麗事」星街すいせい～

団体男子優勝　広島学院高等学校

C L 2年 太田和志

登山競技って、なんでこんなに苦しいんだろうってずっと思っていました。というか、今でも思っています。入部して間もなくA隊になってから、常にままならないことで僕は埋め尽くされていました。体力がなく周りとの差に打ちのめされ、好きなこと、他にするべきことを制限して準備に時間をかけ、ペーパーテストを詰め込み、見飽きるほど大会山域に赴く。神経を削りながら、何度も心を折られながら、山に登る。きっと僕は、こういうところでこの競技に辛さを感じているんでしょう。

僕が高校の半分の間、向き合い苦しみ続けてきたA隊って、結局何だったんでしょうか？ 苦楽を共にしてきたメンバーとは何者だったんでしょうか。今までA隊として一緒に出場してきた彼らを友達や仲間なんて生優しくありふれた形容で括ることなんてできません。彼らは、色々なものを作りました。吐き気のする不快感、抑えきれない苛立ち、どうしようもない激情……そして、山に登る少しの楽しさと全員で頂上に達した時の胸を突き上げられるような感動。

なんかよくわからないんですけど、みんなと挑む大会での登山って楽しいんですよね。去年のインハイで先輩と共に惜敗して、リーダーになってからの3つの大会は一回も勝てなくて、そもそも登山自体が普段の生活圏に対する位置エネルギーを増やすだけの行為のはずなのに。

登山競技が、A隊でいることが、どうしようもなく楽しかったです。ありがとうございます。

「こんな声だって伝わらなくて
もっと完璧な言葉を紡ぎたくて
ずっと欲張って
きっと間違えて

2年 河野 祐大

登山競技が苦手だった。登山大会はよく準備が8割と言われる。準備といつてもこれと言った高揚もなく、特に何の実感も掴めない。ただ責任感と義務感だけが日に日に募っていく。そもそも減点方式だから尚更だった。優先順位は混乱するし、修正は終わらないしで、登山競技が嫌いになりそうだった。それでも高一の冬に感じた強烈なインターハイへの憧れと、圧倒的な先輩方の存在が私の心を支えていた。

普段の練習とは対照に、登山大会は想像していたものとはだいぶ違った。

4日目の山行は深入山だった。前日の山行が大幅に短縮されたのでコンディションは良かった。谷筋を吹き抜ける穏やかな風が心地よく、尾根に出ると、パッと目の覚めるようなオレンジ色の空と、朝日が輝いていた。遠くには雲海が広がっていた。何度も登ったはずの山でみた景色は新鮮で、少し嬉しかった。山をすっかり知ったつもりでいた自分が、少し恥ずかしいくらいだった。

登山は自然という圧倒的で絶対的なものにぶつかれる。誰かと比べて憧れたり、劣等感をいだくのではなく、自分とひたすら向き合うことができる。上を向いて踏ん張った歩荷。何の目的もなく、ただ不安を語り合っただけのミーティング。この競技で得た経験はメダルや賞状やトロフィーよりもきっと価値のあることだと思う。登山という競技に出会えて本当に良かった。

最後に、多くの指導をしてくださった先輩方や、素晴らしい環境を整えてくださった顧問の先生方、そしてインターハイという最高の舞台を用意してくださった高体連や支援隊の皆様、本当にありがとうございました！

1年 面谷 大平

この度はチームメイト、家族、友人、先生方、その

他インターハイに関わった全ての方々のお陰で優勝できました。この場を借りて感謝申し上げます。感謝したいのは人間だけではありません。大会山域となつた恐羅漢山、十方山（登れなかつたけれども）、深入山、そして日々の練習で登つてゐる見越山などの山々にも感謝しております。

広島学院の登山部に中学から入つて約3年間、私は山のお陰で成長できました。運動は不得意でしたが、山を走り続けることで体力がつきました。その他にもパッキングや読図、設営など、登山に必要な様々な能力が身につきました。これからもたくさんの山に登り、成長して参ります。目指すはカラコルム山脈の最高峰・K2です。

そして高校生の登山部（山岳部／ワンダーフォーゲル部）員の皆様。登山は自分を成長させてくれるだけでなく、絶景や人との出会いなど、多くの感動も与えてくれます。これほど価値のある活動をぜひ続けて頂きたいです。

またどこかの山で（願わくは来年の氷ノ山で）お会いしましょう。改めて、本当にありがとうございました。

1年 植田 雄太

広島学院は中高一貫校なので中学生の頃から登山部があります。僕が中学1年生のとき、まだ登山の大会や山の知識が全くなかったとき、当時の高校2年生の先輩方が2022年の香川大会で優勝しました。近くで先輩方の努力を見ていたわけではなかったのですが、同じ部活の先輩が優勝したのはとても嬉しかったです。また当時の僕の眼には優勝した彼らは際立つて輝かしく映り、時が経つにつれ登山に力を注ぐようになった僕の憧れになりました。「いつか彼らのようになりたい」という欲望が次第にできました。

しかし、登山競技は甘い世界ではなく、何度も壁にぶつかりました。自分中心になり他のメンバーと喧嘩をしたり、高校1年生で競技経験がなかつた僕には練習内容によっては意味を見出せなかつりました。「僕はあんな風にはなれない」と練習をするうちにそう思うようになり、県総体

の前にはA隊を辞めようとも思いました。辞める話をしたときにC Lの太田先輩に言われたことが鮮明に残っています。「俺も辛かったときがあった。俺が冬（高一の頃）にモチベが下がつていたときに頑張ろうって励ましてくれてありがとう。だから俺たちには植田が必要なんだ、優勝するためには。」唐突に昔のことを言われ、その瞬間に昔の自分を思い出しました。「いつか彼らのようになりたい」。そういえばそうだったな。インターハイで優勝し、僕は先輩に恩返しもできだし、中学生の後輩に良い姿を見せてあげることもできたと思います。でもこれは何も分からなかつた僕たちに教えて下さつた高校2年生の先輩方2人の勝利で僕は全く香川インハイの先輩に追いついていません。来年は先輩の代わりに僕がチームを率いて頑張り、後輩からいつかあんな風になりたいと思われるよう、また香川インハイのときの「彼ら」になれるように頑張ります。ありがとうございました。

団体男子15位 修道高等学校

2年生 壱岐渓一郎

インターハイを終えて「優勝、広島学院高校。」僕たちの高校名は閉会式で最後まで名前を発表されなかつた。正直自信はなかつたが、いざ結果がわかると頭が真っ白になつた。そして支えてくれた先生や友達、保護者の方たちへ申し訳ない気持ちでいっぱいだつた。結果をみると98.7点。ペーパーテストでの0.3点と装備の防水不備での1.0点の減点だつた。本当に悔しかつた。感情がぐちゃぐちゃの中で大会を振り返るといろいろなことがあつた。インターハイ初日の8月5日、僕は選手宣誓があつた。人生で一番といつていいほど緊張したが僕の大きなミスもなく本当に安心した。ペーパーテストでは少しのミスはあつたが、みんなでやつちまつた一と笑いながらすぐに切り替えられた。その後の設営、炊事審査も良い感触だつた。僕たちは設営で減点されることがよくあつたので週二回の設営練習の結果がついに出了と喜び合つた。2日目の8月6日、朝3時20分に起床しアルフ

ア米を食べながらとにかく落ち着いて 楽しんでいこうと話し合った。お互いに緊張しているのが分かった。登山行動が始まると 読図や記録をしながらも、美しい恐羅漢山の中を楽しみながら歩くことができた。山を下りてからの二軒小屋駐車場で地図と記録書の回収があったが、みんなでミスがないかなどを何度も何度も確認した。やれることはすべてやったと自信があった。幕営地に戻ってから今夜は悪天候になりそうなので入浴、クーリングタイムを行ってから避難すると伝えられた。3日目の行動などが心配だったが屋根があるところで寝られるという嬉しさもあった。3日目の8月7日は前日からの悪天候でコースが大幅に短縮された。気を抜かず頑張ろうと声を掛けあいながら何事もなく下山できた。幕営地で設営審査が終わった後しばらくして審査物の一部返却があった。意図しない減点があっても切り替えていこうといいながら返却物を確認した。返却物は途中まではうまくいっていた。ただ登山での基礎となる装備で減点されていた。審査員の人に抗議をして確認してもらえることになったが、僕はあれだけ切り替えようと言ったにもかかわらず動搖してしまった。その時ほかの三人が、あれは採点ミスだと思う、と慰めてくれた。三人も同じように動搖していたはずなのに慰めてくれて本当にありがとうございました。そのおかげで炊事審査は冗談を言いながら明るく終わることができた。最終日の8月8日、深入山は気温もちょうどよく雲海が本当にきれいだった。あの景色の中を歩いたのはこれからも忘れないと思う。下山してからもう一度審査物の返却があった。結局装備は審査員の方たちに確認してもらったが駄目だった。三段峡に行きホテルに向かいながら、もうだめかもしれないと思った。引率の先生やA隊と最後まで堂々としていようと言った。ホテルに戻ると他校の人たちと話したり、計画書を交換したりと気さくに交流することができた。閉会式の8月9日、結果は僕たちの求めていたものではなかった。しかしこの大会を経て、山を歩く上での体力、歩行はもちろん、インターハイに出るにあたっての練習メニューなど、意見が衝突しながら勝つには何が必要かなど、意見が衝突しながらも、自分たちで考えてそれをやってみるというところが成長できたと思う。最後に、審査、大会の運営をし

てくださった方々、普段からサポートしてくださった顧問の先生方、保護者の方たち本当にありがとうございました。そして大会本番まで僕を支えてくれたA隊の3人、本当にありがとうございました。

団体女子4位 ノートルダム清心高等学校

C L 河本愉楽（チャン・ユラ）、S L 松本みきね（メケウェ）、M 1 入江真充（まみちゃん）、M 2 濱野珠希（によもにゃん）

チャン・ユラ「あー楽しかった楽しかった～」
メケウェ「え！ それなーめっちゃ楽しかったよね！」
によもにゃん「最終日の夜ホテルでシーフードヌードル食べたのめっちゃいい思い出だわー！ 空気清浄機のランプが緑から赤になっちゃったけどね」
まみちゃん「えっ楽しい思い出それなん」
によもにゃん「いや他にもあるけどさあー」
チャン・ユラ「十方山登れんかったんは悔しかったねー 私、十方山が1番得意だったのに一雨まじ許さんけえ笑」
メケウェ「初めて体育館で泊まれたのはいい経験だったかなあ」
まみちゃん「私は深入山何回も登ったことあるけど初めて雲海見れて嬉しかったな」
によもにゃん「初日にテストやらかしたと思って号泣したわー 懐かし～」
メケウェ「私も救急ミスったのわかった時マジで大号泣だったー」
チャン・ユラ「でもいつもニコニコしてる先生の」
チャン・ユラ、メケウェ、によもにゃん「「「切り替えんさいよ」」」
全員「wwwwwwwww」
まみちゃん「私も聞いたかったー」
チャン・ユラ「これで切り替えられたよね」
によもにゃん「みんな審査はどうだったー？」
メケウェ「やっぱり県総体とは違う緊張感あったよねー」
チャン・ユラ「設営審査で練習の成果出てよかったですよね！」

まみちゃん「ビーフンをスープにしちゃってすみませんでした」

によもにゃん「深入山降りてから頑張ってボールペン5本使って記録書いたわー、全然インク出なくて焦った」

まみちゃん「ほんといい思い出になったよね」

メケウェ「うんうん、インハイに戻りたい！」

チャン・ユラ「優勝目指して頑張ってきたから悔いって気持ちもあるけど、4人全員が最後まで全力を尽くして作り上げた結果だから悔いはない！！この大会に携わってくださった役員の方々に感謝しなきやね」

全員「ありがとうございましたー！！」

団体女子12位 広島県立広島高等学校

梶谷例子

私たち県立広島高校の登山部は今回のインターハイが初めての出場となりました。わたしたちのチームの長所は、どんなことも笑顔で楽しむことができることです。初めてのインターハイでどんなものなのかわからず不安も少しありましたが、明るい雰囲気の大会で私たちらしく山に登ることができました。同じグループの人やお話しした人がみんな優しく、全国から集まった方たちとたくさん交流できて、とても楽しく貴重な経験になりました。また、これまで筆記などたくさん準備てきて何度も登ったことのある山でしたが、他校の強さにとても驚きました。とはいえ、恐羅漢山、深入山、三段峡は、美しい自然や景色を見ながら無事登ることができ、十方山は頂上には行けませんでしたが、避難した体育館ではたくさんの学校と交流することができとてもとても良い思い出になりました。炊事でナンを作ったり、踊ってみたり、だじやれを発表したりほかにもたくさんの楽しい思い出ができました。また、今回の大会には広島高校の登山部の先輩や後輩、先生方が役員として参加してくださっており、多くの人が支えてくださったおかげで私たちが活動できていると改めて感謝する機会になりました。後輩たちがサンプリングを提供してくれたり、笑顔で

手を振ってくれたり、先輩や先生方が一緒に登ってくださっているのはとても心強かったです。登山部に入る前はただ山が好きだけでしたが、登山部に入って登山の大会に出会うことができて本当に良かったと思います。登山大会でしかできないチームメイトとの協力やたくさんの出会いがあり、一生忘れることのないこれから私の支えてくれる経験ができました。特にインターハイはより多くのさまざまな人々と出会うことができ、日程も長くここでしかできないことがたくさんあって、本当に出場できて幸せだと思いました。これからも後輩を全力で応援し、自分自身も山に関わっていきたいと思います。

井上りお

私は、インターハイに参加してみて、とても貴重な経験ができたと感じた。最初は、スポーツやその中でも登山が好きなどという理由ではなく、運動不足の解消のためにしぶしぶ運動部の中で一番楽に思えた登山部に入部したのが始まりだった。しかし、実際に入部し、先輩や同級生の友達と登山するうちに、自分一人でする運動は苦手だった私だが、仲間と体を動かすことはこんなにも楽しいものんだと実感した。特に登山においては、みんなで山頂に登るという同じ目標を持ち、特に競うこともなく協力し合って登るという過程がとても平和で楽しい魅力的な競技だと感じた。

今回のインターハイに出場するまでには大変だった思い出が沢山ある。まず、私たちの学校は他の出場校より比較的登山部の歴史が浅く、私が入部したばかりの時期は何をやるにしても手探りの状態で進めていた。それでも、登山部の仲間みんなで過去の大会の資料を見て分析をしたり、一緒に体力づくりや天気図・課題テストの勉強をしたり、そして色々な大会に参加する中での経験により沢山のことを学んだ。しかし、それらは大変であったものの、苦しい思い出として残っているものは一つもなく、仲間との部活の時間全てが楽しく幸せだった。

今回のインターハイでは、今まで自分たちが参加してきた、広島県や中国地方の大会とは一味違い、出場校の数も何倍にも増え、登山という競技に真剣に取り組んで各都道府県から勝ち上がってきた人たちが一

堂に会して過ごすという貴重な経験をすることができた。こんなにも登山という競技を楽しんでやっている人が多くいるんだということを肌で実感することのできる場だった。今回インターハイに出場し、様々な学校の人と一緒に登山し交流するという生活を共にしたことにより、登山を本当の意味で今までよりも格段に楽しむことができたと感じた。これからも趣味として登山をしていきたいと感じることのできる大会だった。

山根玉輝

私たちのチームは、登山部の創部以来初めてインターハイの舞台に立った。初出場だからといって弱気になることなく、「必ず結果を出す」という強い意思を胸に、4人で挑戦した。出場が決まってからは、努力の集大成を發揮する場として、後輩たちのサポートや応援に応えたいという思いを胸に、気持ちをさらに引き締めて練習に取り組んだ。仲間と部活動に励む時間は本当に楽しく、かけがえのない日々だった。そのため、これまで積み重ねてきた練習を信じてスタートラインに立った瞬間、胸の奥から熱い決意が湧き上がるのを感じた。

インターハイで登る山は、昨年の中国大会予選から何度も登った場所だった。しかし今回は引退を控えていたこともあり、目に映る景色や仲間との会話が、いつも以上に特別に感じられた。登山部の一員として、山で青春を過ごせたことは、私にとって何よりの幸せだった。大雨の影響で十方山には登ることができず、悔しさは残ったが、仲間と共に過ごした避難先での時間も、大会で得られた大切な思い出となった。

また、各都道府県の代表校のチームとの交流も印象深かった。地域ごとに登山大会のルールや審査項目が異なることを知り、日々の練習メニューを聞く中で、多くの刺激を受けた。全国大会だからこそ得られる学びの深さを実感し、自分たちの活動を見つめ直すきっかけにもなった。今後の挑戦につながる、貴重な経験だったと感じている。

インターハイを通して学んだのは、登山の技術や体力だけではない。仲間と協力することの意義、目標に向かって努力を重ねる過程、そしてその先にある達成

感の価値である。こうした経験を得ることができたのは、仲間や後輩、そして日頃から支えてくださった先生方や家族のおかげだと心から感じている。この経験を、これから的人生を支える大きな財産として活かしていきたい。

渡邊愛心

「頂上へゴー！来い、インターハイ！」公式インスタグラムに流す、私達の掛け声が響く。これが最後の戦い。全国の舞台に初挑戦だ。私は1年生の時、バスケ部に所属していた。色々あって上手くいかず退部した。そんな私を登山部の友達が誘ってくれた。そして顧問の先生も、「バスケ部だったし、体力もあるから、頑張ればインターハイに行けるよ。」と言ってくれた。その言葉が現実となった。私達がインターハイで優勝するには、経験と知識が足りない。それを補うために助けてくださった先生方、また合同練習を快く引き受けて下さった広島学院高校の皆さんに感謝している。私達が3年生ということもあり、部活以外の時間を作るのは非常に大変だった。しかし、全員で出来る限り努力を続けた。インターハイ直前には、寮に3泊4日泊まり込み、毎朝3時20分に起床し、5時までは筆記試験の勉強、5時10分から7時までは体力トレーニングのため外に走りに行った。この合宿は楽ではなかったが、夜にお互いの登山への思いを語り合ったことは、とても良い思い出だ。そして迎えたインターハイ初日、筆記試験が思うようにいかず、落ち込んだ。それを取り返したいという思いで挑んだ、登山1日目の恐羅漢山。何度も下見で登っていたが、いつもより緊張感しながら読図も行った。タイムレースでは、班のグループの中で1位ゴールできた。しかしその夜、思わぬ豪雨により、避難所で一夜を過ごした。思わぬ出来事だったが、全国の高校と交流ができる、とても良い機会となった。登山2日目、十方山は登らず獅子ヶ谷登山口までを歩くというコースに変更された。十方山の読図には自信があったため、残念だったが、登山が中止にならず良かったと思う。登山3日目の深入山では、今までの登頂で、一番美しい景色を見ることができ、本当に感動した。そして、最終日。結果は12位だったが全員後悔はなかった。私は、この4人で最後まで登りきったことを誇りに思う。帰りの電車で、

「今までありがとう。」と4人で抱き合い、泣いたことは、かけがえのない思い出となった。

2. 第6回広島県山岳SC連盟写真展報告

担当：福永 やす子

開催期日 2025年9月16日（火）～21日（日）

訪問者数 183名（1日平均30.5人）

（第5回183人 第4回176人 第3回170人 第2回181人 第1回305人）

アンケート提出数71、内訳は連盟会員13・一般及び不明58

受付当番（AM:10:00～13:00 PM13:00～17:00 最終日16:00）

9/16 AM 福永・村井 PM 後藤夫妻

9/17 AM 池野・福永 PM 廣田・奥

9/18 AM 江種・笹田 PM 江種・奥

9/19 AM 後藤・豊田 PM 後藤・福永

9/20 AM 福永・豊田 PM 福永・村井

9/21 AM 世戸・藤田 PM 世戸・藤田

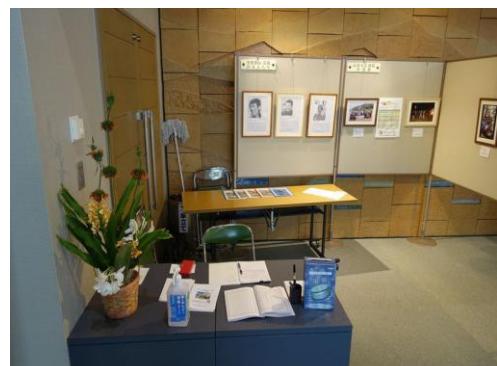
福永各4回、後藤博・村井・奥・豊田各2回、廣田・池野・江種・笹田・後藤・世戸・藤田

尚、この写真は三倉岳休憩所で年内いっぱい展示（2週間毎に一部入替）しておりますので、今回見逃された方は是非ご覧ください。

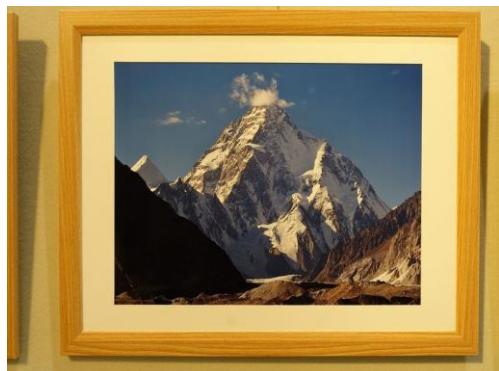


（一社）広島県山岳・スポーツクライミング連

『写真展ポスター』小林敏行作（可部山岳会）



会場の模様



『2025 K2』重廣恒夫（招待）



『利尻岳嚴冬』小林喜明（招待）

アンケート感想文

（連盟会員）アンケート提出数 15

（一般・不明）アンケート提出数 63

9/16～18

- 山の写真は山も人も自然が美しい。
 - S5～7 の写真はプロです。白川義員だ。
 - 撮影地の表示は参考になる。
 - 綺麗な写真を見せていただきありがとうございました。
 - バライティでどれも見事です。
 - 凄く綺麗です。
 - 皆さんプロのカメラマンですか？
 - 皆さん山登りもすばらしいことのうえカメラもプロ級で驚くばかり。澄んだ空気に迫力ある景色にとても感動しました。一度で良いから山へ登ってこの目で見たい。
- 9/20～21
- とても良い写真でした。岡本さんのようにサインするのもおしゃれと思いました。
 - どの作品も美しい自然を上手に撮影され

ていて感動しました。

- 山の風景がきれいだった。
- 海外にも行かれているのに感心しました。
- 私は広島県人ですが、関東在住なので単独で行けそうな所に行ってます。ステキな写真ありがとうございました。
- 毎年楽しみにしています。
- 写真に句がそえてあると思いが伝わって来て心深く観賞できました。

来年もまた足を運びたいと思います。

特に好評だった作品の紹介と写真展のポスター

（末尾の数字はアンケートの票数）



『奥又白池と夏空』 後藤 遙介（広島大学山の会家族） 18



『鳳が如く』 末井 直（会友） 15



『ヨイショ！ヨイショ！』 福永 やす子
(広島山岳会) 14



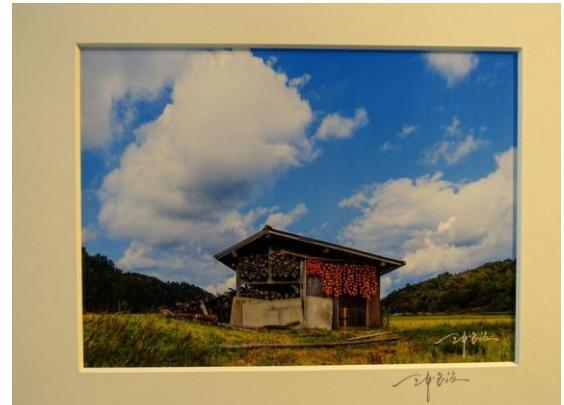
広島登山界の先人：寺西洋治さん



中国地方：『朝霧』福永やす子（広島山岳会）



撮影地地図：村井仁（広島県庁山の会）制作



里山の風景：『朽ちかけの稻架台と柿すだれ』
岡本良治（広島山岳会）



全国の山：『有明月』江種幸男（福山山岳会）

第6回目の写真展に多くの方のご協力を戴き趣向を凝らして地図を見ながら現地場所を想像し

て楽しむ思いで作りが広がりました。

また、奥富久枝さんには登山家、重廣恒夫氏の写真を展開してもらったり、中国新聞の情報交差点に記事を乗せたりと多大な協力を戴きました。

山口県山岳・スポーツクライミング連盟会長の古林喜明氏の写真はプロ級で大きな写真を拝見するのも初めての体験でした。招待作品の素晴らしい山岳写真を紹介出来て、とても感謝しております。今後興味を持つてもらう若い方々に期待を込めて岳連行事として継続してまいります。

3. 中国5県自然保護研修会報告

普及部部長 松井秀樹

9月27日（土）・28日（日）、広島県山岳・スポーツクライミング連盟が主管で、深入山の麓のいこいの村ひろしまを会場に、中国地区自然保護指導員研修会が開催され、中国5県から36人が参加しました。この研修は、2017年に広島県岳連が呼びかけて始まったもので、途中コロナによる中断があったものの、昨年の島根県・隠岐の島での開催で中国5県を一周し、再び広島県に帰ってきたものです。

1日目は、まずはいこいの村ひろしまの多目的ホールで、NPO法人西中国山地自然史研究会の和田秀次様、佐久間智子様を講師に、「八幡高原の成り立ちと自然の特徴」をテーマに座学を行いました。

八幡高原は、1万年前は湖で、約6500年前に湿原が誕生し、江戸時代から湿原の開発が始まり、1960年代に土地の改良（農地化）が行われ、乾燥化していったのだそうですが、2007年度から2009年度にかけて、湿原を再生する事業が始まったそうです。先日、廿日市市吉和の冠遺跡で、日本最古かもしれない石器が見つかったとニュースになっていましたが、八幡高原でも後期旧石器時代（4万年前から1万5千年前）の石器が見つかり、隠岐の島産の黒曜石も発掘されるなど、古くから人々が暮らし、往来があった土地であったと思われます。

自然の特徴としては、草地はほったらかしにすると、やがてアカマツの林になり、やがてコナラ（標高が高ければミズナラ）の林になっていくこと、八幡高原にはサワグルミやトチなど、湿ったところに生え、普通は斜面には少ない樹木が見られること、臥龍山にはブナ林に天然のスギが混在しているが、これが本来の姿であることなどの話がありました。

また、会場の横の深入山についても、1730年代には蔵座周辺に5か所のたたら場があり、製鉄のために木を切った跡地を牧場として利用していたこと、牧場として利用しなくなった1955年ころから観光目的の山焼きに変わったこと、現在282種類の植物を確認して

おり、これは広島県で観察される植物の種類（2273種）の12%に当たること、これだけ多くの種類の植物があるのは山焼きにより光がまんべんなく当たっているからであること、282種のうち11種は絶滅危惧種であり、絶滅危惧種のうち8種は草原性植物であること、また帰化植物は4種と少なく、これは山焼きのおかげであることなどが紹介されました。

最後に、数年前の朝ドラのモデルとなった植物学者の牧野富太郎博士が八幡高原を訪問した際のエピソードが紙芝居で紹介されました。



座学の後は、バスで八幡湿原（霧ヶ谷湿原）に移動し、2班に分かれて実地で観察を行いました。ここは1960年代に牧場造成で草地化された土地で、2007年度から湿原に再生する事業が行われています。湿原に再生するために、中央にあったコンクリートで固められた水路を壊し、自然の石を並べて取水堰を作り、そこから水平に水路を張り巡らせて、水が行き渡るように改修したそうです。現地では、植物の観察のほか、取水堰や、もともとあったコンクリートの水路が残っているところを観察しました。また、ススキが生えているのは水路が壊れるなどして少し乾燥している土地であること、本来であれば湿原にはもっとカンボクが生えるのだが、開放的な景観を維持するためにカンボクを伐採しており、自然のままにまかせるべきかどうか植物学者としてはジレンマがあることなどの話がありました。



夜は懇親会を行い、各県から多くの酒やおつまみが持ち寄られ、楽しい時間を過ごしました。また、この場で、中国5県をもう一周することが異議なく了承されました。

2日目は、八幡湿原を育む臥龍山に登りました。霧ヶ谷湿原から猿木峠を通り、山頂から雪靈水を通って千町原へ下りる周回コースです。自分は鳥取県のメンバーと一緒に登りましたが、確かに水の多い山であること、ブナとスギが混在している森があるがスギが自然のものか人工のものかがわからないこと、普段登る大山の森とは雰囲気が違うことなどを話しながら、楽しく回りました。

なお、これは予定外のことだったのですが、ちょうど八幡高原ではソバの赤い花が満開で、素晴らしい景観をつくっていたことも、他県の方は（もちろん広島県の方も）大いに満足されたようで、多くの方が下山後にかりお茶屋でそばを食べて帰っていました。

なかなか得るもの多かった2日間だったように思います。来年は岡山県で開催です。ぜひ、広島県から多くの方に参加していただけたらと思います。



4. クライミングスクール報告①

指導部 塩田 徹

第5回 9/7(日)

山域：三倉岳 源助Ⅱ峰

人数：15名（スタッフ含）

今回は、色は匂えと.9 をチムニースタートでチムニー通過後スリングを使ってロープ登高を行ない終了点到着後セカンドビレイの講習と、緩斜面立木でビレイ器ガイドモードによるセカンドビレイの講習と白日夢左.9 をトップロープで確保し疑似リードの講習を行ないました。15:30 源助崩れに移動し猫の悲鳴の終了点で金属支点によるトップロープ支点構築とセカンドビレイ支点構築を講習しました。

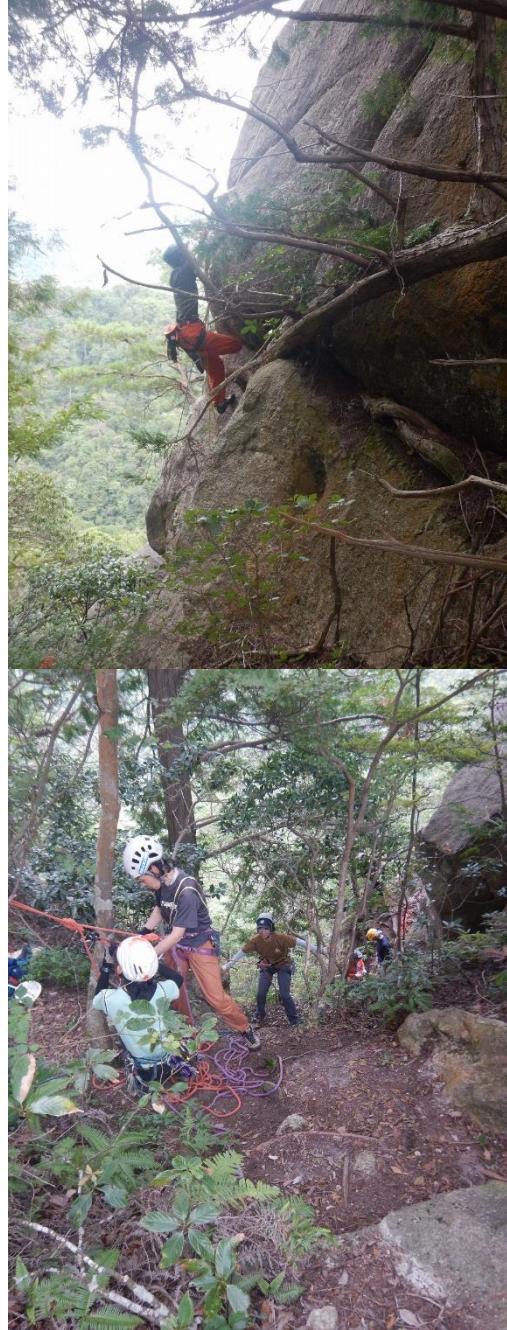
感想 脇坂 紗里子

9月に入り、2か月ぶりのクライミングスクールでした。残暑は厳しかったですが、岩場に着くと、時折、風が通り、心地よさを感じることもありました。本日のクライミングスクールは、源助Ⅱ峰にて、①ビレイデバイスのガイドモードを使用したセカンドビレイの練習②ロープ登高、ムンターヒッチでのセカンドビレイの練習③トップロープの登攀（ビレイ、リードビレイの練習含む）でした。これらを3人一組になり、ローテーションで回りました。

私たちのグループは午前中に斜面で、①ビレイデバイスのガイドモードを使用したセカンドビレイの練習でした。フォロワーで斜面を登攀後、立ち木にスリングでガースヒッチで支点構築した後にセルフビレイをとり、メインロープよりインラインエイトノットを作り、それにビレイデバイスのガイドモードをセットし、ビレイを行います。途中、フォロワーのロープを緩める手技（ビレイデバイスのリリースホールにカラビナのノーズを差し込み、上に持ち上げる）も練習しました。午後からは②ロープ登高の練習でした。岩の麓でロープ登高ロープワークの練習をし、実際に岩場（チムニー）を登攀し、オーバーハングの岩になるため、ロープ登高の準備をします。メインロープにスリングでマッシャートレスを作り、ハーネスに連結し、クレムハイストで足がかりを作り、登高します。支点に到着したらセカンドビレイを交代。メインロープでインラインエイトノットを作り、ムンターヒッチでビレイします。フォロワーが登りきるとビレイ解除し、懸垂下降で降りるという練習でした。その後、源助崩れに移動し、2つのボルトをスリングで連結して確保支点をとる講習を受け、終了しました。

今回、メインロープを支点にして、2種類のセカンドビレイの方法を習いました。ビレイデバイスのガイドモードを使用した方法は過重すると自動にロックがかかりロープが流れなくなるため、安心な反面、逆に緩めるときは、テンションがかかっているのでリリースホールにカラビナをかけて上に持ち上げるのに力を要し、かつ、ロックが解除され緩むと一気に落ちてしまうため注意が必要で制動手はしっかりと握って片手でコントロールが必要です。手順もムンターヒッチに比べ多くはなります。ムンターヒッチでのビレイは

手順も少なくてシンプルだが、落ちた時に止めることができるのが不安だなと感じました。いろいろな方法があることが分かりました。登攀、支点構築、ビレイ、と一連の流れが滞りなく、流れるように正確に作業ができ、妥当な方法が判断できるようになるには、知識、技術、経験の積み重ねが必要だなと実感しています。終わりに、いつも丁寧に根気強く教えて下さり、有難うございます。また、一緒に学んで登ってくれている仲間にも感謝です。



（写真提供 森本 覚）

5. 岩稜歩きスクール報告①

指導部担当副会長 森本覚

第6回 9/21(日)

山域：奥匹見三ノ谷

人数：15名（スタッフ含）

9/21(日)第6回目は、天候の関係で予定を変更し講習場所は

奥匹見三ノ谷に行きました。

今回は今までのロープワークの復習を行ない、その後レスキューを

含めた沢登り独自のロープワークについての講習を

行ないました。

感想 山田 仁美

1ヶ月ぶりとなる沢登り、さっそく入渓かと思いきや今までのロープワークの習得具合をチェックされます。

夏の間繰り返しやってきたロープワークなのに、この間まで出来るようになっていたのに、なぜかできないものがあります。

使わないと忘れるのを痛感し、改めておさらいしようと思ったところからスタートです。雨が続いていたこともあり、去年訪れた時より増水していて水圧はなかなか。足元をとられないように、慎重かつペースが落ちないように歩みを進めます。

小さめの滝でも増水のおかげで、シャワーの中を登る楽しさがありました。

しかし今日は講習です。楽しいだけの沢登りで済めば良いけど、滑落や捻挫・骨折などで行動不能になった際の対処を学びます。

沢ではヘリがホバリングした際に、下部が真空になって墜落リスクがあるそうで、なるべく負傷者を尾根付近まで上げたいそうです。（携帯電話の電波をよくしたい思いも含む）負傷者がハーネスを履いている状況下では、より安定した引き上げができるようシートベントでチェスト（簡易）ハーネスをつくり、ハーネス2点のバランスをとりながら上からおろしたロープに固定し引っ張り上げます。パーティのメンバーでロープ上にインラインエイトノットまたはダブルフィギュアエイトループを作つてアンカーし、もう1本のロープも複数名のパーティで引く。滑車がなければスリングとマッシャートレスで落下防止をしながら固定すると良し。大勢でようやく1人を引き上げられるくらいの流れなので、やっぱり“事故なく安全に”が最優先だと戒めになりました。そして一連の仕組みを紐解けるように頭の中のおさらいが必要です。

そしてさらに小さな滝を登ると少し広いところで渡渉の方法を教わります。水流が多く、膝上までつかるような所では遠巻きしたりルート変更することを大前提に、渡渉する際に渡すロープの張り方（滑車の使用と上流→下流にロープを張つて溺水防止）を学び

ました。どこで支点をとり、どうロープを動かすのか、次に渡すまでのロープの回し方……仕組みはシンプルですが、それを構築するための力量が追いついていないのを痛感しました。

岩稜歩きスクールも残すところあと2回。定着したロープワークは忘れずに、うろ覚えになつてしまふ所は復習し、実践に繋げていきたいです。今回も安全に受講できるようご指導ください、ありがとうございました。

感想 山本 うた子

岩稜歩きスクールでは3回目の沢登りです。

9月21日、残暑も厳しい日が続き、当初岩渕山の予定でしたが奥匹見峠で沢登りに変更となりました。

入渓の前に駐車場でロープワークの復習として、エイトノット、中間エイト、ムンターヒッチ、懸垂下降時のビレイデバイスのセット、マッシャートレス、今まで教わってきたロープワークができているのか一人ずつチェックがありました。私はエイトノットを何度も何度も練習してきたので綺麗に作れる自信もつきました。

今回は主に沢での救助方法と川の渡渉についての講習内容でした。V字谷の地形をしている沢では木々が高く、樹木が密集しているので救助ヘリが降りられない事がある。負傷者を滝の上に引き上げて安定している場所へ搬出させるため、ロープで確保する技術、引き上げシステム（1/2システム）をスタッフの方がやって見せてくれました。マイクロトラクション、タイブロック等々聞きなれない道具の言葉が出てきましたが使い方もよくわかつていません。救助方法はその時々で周りの状況が違つてくるので、どんな場合でも適切な対応が出来るようにロープワークの技術と知識を深めていきたいです。

次に川の渡渉については、基本的には上流から下流側へ斜めにロープを渡すこと。ほぼ水平位置にしか渡渉できない場合、リードがビレイをしてもらい対岸へ渡渉するのは同じですがリードは確保用ロープに加え、万が一セカンド以降がおぼれた場合に備えて引き上げ用ロープを携えて渡渉することになる。沢レスキューも渡渉時のロープワークも、初めて知るシステム

でしたので「なるほど！」と思えても時間が経てば忘れてしまいそうです。機会があれば「沢レスキュー訓練」「渡渉訓練」の場があればやってみたいです。

3回の沢講習を終えて知らなかつたことも多く、これまで自分が行っていた山行が「連れて行ってもらう側」になっていることに気づかされました。

そして最後は、小滝やゴーロを思い思いに歩いて今年の沢納めを楽しむことができました。まだまだ自分に足りない技術だけですが、この岩稜歩きスクールで習得したロープワークを活かせるように、来年はステップアップをした沢登りをしたいと思います。スタッフの方々の丁寧なご指導に感謝いたします。スクールもあと2回となりましたが引き続きよろしくお願ひいたします。



（写真提供 久保田 征治）

6. 机上講習報告

指導部担当副会長 森本覚

日時 9/28(日) 9:00~17:00

講習場所：三篠公民館 研修室

人数：12名（スタッフ含）

「公認山岳コーチ1養成講習会」の基礎理論講習を実施するにあたり、コーチ資格の取得を意識していない方にも、知っておいて頂きたい科目を「夏山登山での基礎知識机上講習会」として募集して同時開催いたしました。9:00~17:00の長時間の講習でしたが、みなさん興味をもって受講されていました。

感想

広島県庁山の会 周々木朝香



令和7年度夏山登山での基礎知識机上講習会を受講しました。5年程前に登山を始め、人についてただ登っていたのですが、もっと主体的に登れないものかと、参加を決めました。

講師が前に立って解説するのではなく、講義内容がスクリーンに映し出される形式です。テキストは140頁、中々充実の講習でした。全てをすぐ咀嚼は出来ませんが、入口に立っただけでも価値があったと思います。昼休憩には様々な装備の解説もありました。

ありがとうございました。



7. クライミングスクール報告②

指導部 塩田 徹

第6回 10/5(日)

山域：三倉岳 源助崩れ

人数：12名（スタッフ含）

未明までの雨の為午前中はロープワーク講習を行ないました。

内容は自分にボーラインノット、立ち木にボーラインノット、立ち木にクローブヒッチ、スリングチエストハーネスの作り方、カムの取り扱い、トポの活用方法等です。

午後からは岩が乾いてきたので、モアイクラックとラッキーネーブル下部でトップロープで確保した状態でセットしてあるカムを抜き差ししながら、疑似リードの講習を行ないました。

「猫の悲鳴」の支点を使い最下部から空中での登り返しの講習も行ないました。

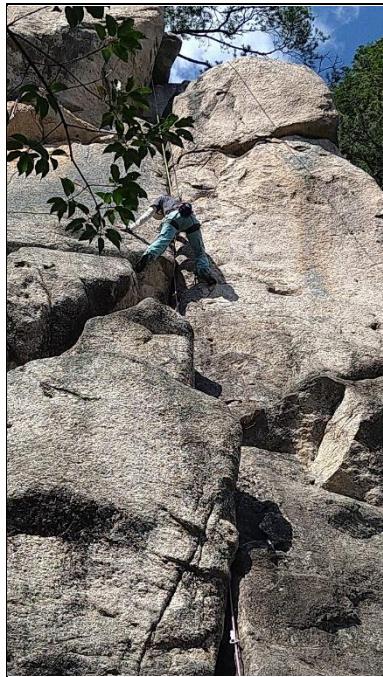
感想 山本郷子

今回6回目のクライミング教室がありました。前日まで雨のため、当日にクライミングができるかドキドキでしたが、幸い雨も止み、岩が乾くのを待つため、お昼を少し早めにとり、クライミングを始めました。今回は、カムが設置してある擬似リードクライミングでした。昇りながらカムを一度外し、また設置してロ

ーブをかける行程です。やってみると、カムを外して設置するのに、足元をいい感じに置き、片手を離して、カムの操作をしなければならず、それがとても怖くて緊張しました。落ちても大丈夫だと頭では理解できているはずなのですが、片手を岩から離す状態が、とても緊張しました。また、身体も3点で支えてカムの取り外しをするのに、バランスをとるのも難しかったです。緊張すると手汗がたくさん出始めて、手が滑りだし、またさらに緊張感が増しました。やっとカムを付け替えたと思ったら、今度はロープの重量がとても重く感じました。引き上げるのに、体勢を崩しそうになるし、やっと引き上げても長さが足りず、あと少しでカラビナにロープをかけるのに、重くて苦戦しドキドキでした。トップロープで上がっているときと3倍くらいの緊張感で、1本上がるだけでヘトヘトになりました。登っている時も講師の方から、いろいろなアドバイスをもらったり、励ましてもらったりで、いろいろな体験ができました。もっと練習をして、強くなりたいと思いました。次はあぶみを作って登っていく復習です。前回は岩に沿った場所でしたが、今回は完全にぶら下がった状態での練習です。1回目よりも、スムーズにできたような気がしています。足を踏みかかるときに、完全にぶら下がった状態になるのが、とても気持ちよく、日常の生活ではない感覚だったので、しばらくそのままで居たいくらいでした。あぶみの練習の時にも、講習生が頭や身体をぶつけないように講師の方がサポートしてくださいました。最後にもやい結びの講習です。私は左右が混乱しがちなので、最初は何かどうなっているのかわからないほどでしたが、講師の方に何度も教えてもらったり、できるようになった講習生に習ったりで、なんとかできるようになりました。また、休憩中に講習生のヘルメットが落ちてしまい、すぐに講師の方が拾う準備が始まりました。その時に、もやい結びを木に巻きつけて、ラッペルで拾ってくださいました。もやい結びの実践方法が身近に見れて、勉強になりました。講習会参加のたびにいつも思います。講師の方には本当に感謝しています。前日には現地に入って準備をしていただき、また、当日も講習生の様子も見ながら、サポートしていただき本当にありがとうございます。あと2回と残り少なくな

りましたが、引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。



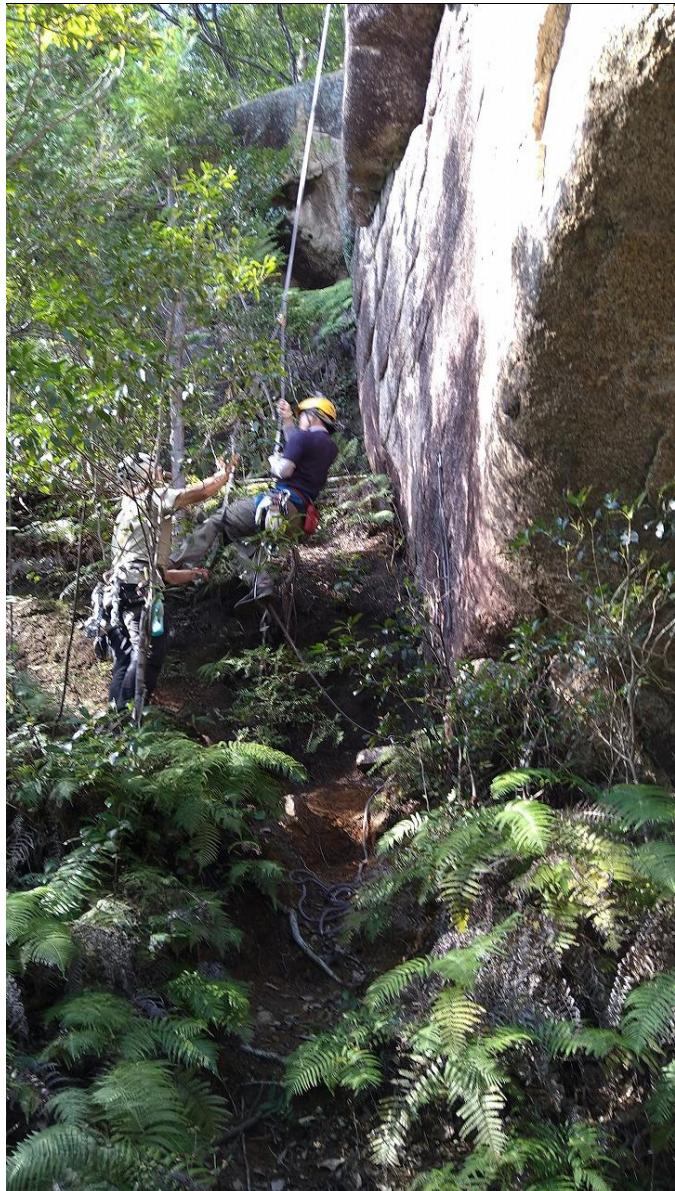


8. 合同山岳救助訓練報告

遭難対策委員長 松本正和
令和7年度広島市安佐北消防署・広島県山岳SC連盟 合同山岳救助訓練をおえて

10/13(月)～14(火)
訓練場所：加坊山登山道付近一帯

令和元年度から始まった、合同訓練はコロナ禍で中止の年もありましたが
今年度で6回目を迎えました。
今回は、福山山岳会から2名参加頂き、両日とも岳連から3名の体制で参加してきました。
昨年は雨天で意見交換会でしたが、今年は無事実技訓練が実施できて良かったです。



遭難対策委員長 松本 正和

目的：山岳救助知識の向上及び広島県山岳・スポーツクライミング連盟との更なる連携協力関係の構築を図り、今後の山岳救助活動に万全を期することを目的とする。

実施日：令和7年10月13日(月祝)、14日(火)の2日間

実施場所：広島市安佐北区倉掛 加坊山登山道付近一帯

実施機関：広島市安佐北消防署 中島救助隊

実施内容：山岳救助事故を想定した救助訓練（登山道からの滑落を想定登山道上まで救出）及び質疑応答

10/13 天候：晴 13:30 広島市総合防災センター駐車場集合

現地では、登山道から滑落した要救助者を発見した後、登山道までの引き上げ救助の訓練を行い、その場で訓練に対する気づき等の意見交換を行った。その後、ビレイデバイス（ルベルソ）の使用方法の説明や事前にいただいていた質問に対する回答を行

(写真提供 塩田 徹)

い、初日の合同訓練を終了した。

改めて、救助隊の連携の取れたチームレスキューの姿勢を見習うとともに、このような救助活動が実際には行われないように、減遭難活動の普及啓発に努めていかなければないと感じた。



9. 岩稜歩きスクール報告②

指導部担当副会長 森本覚

第7回 10/19(日)、山域：岩渕山人数：16名（スタッフ含）

10/19(日)前日からの雨は集合時点で霧雨となり、その後回復傾向でした。1班6名がロープのセットを兼ねて駐車場からスタートしました。2班5名と3班5名はキャンプ場の東屋でロープワークの講習後、

時間差でスタートしました。なんとか天気がもってくれたので全員無事課題を終える事が出来ました。

感想文①

門司 仁美

令和7年10月19日（日）、広島市佐伯区湯来町にある岩渕山に行きました。この岩渕山は当初6月に行くはずが、雨天等により数度延期になり、この度やっと登ることができました。丸子山憩いの森駐車場に集合し、いつもどおり3班に分かれ行動開始。先導する1班がコース中の危険個所にロープを張ってくれている間に私たちの2班と3班は駐車場近くの東屋でロープワークの練習をしました。この講座ではロープワークにも力を入れてあるので、受講生もだいぶ上達しており、この日は第7回ということもあり、スラスラ（多分）とお題をこなしていました。

ロープワークの練習後、登山開始。岩渕山という名前のとおり岩稜歩きの連続。巨大な岩は足場と手がかりを探しながら必死に登りました。危険個所では先導者が張ってくれたロープがありがたく、自分も登りきったところで後続者のビレイを行いました。久しぶりのセカンドのビレイだったので、一瞬頭が真っ白になりましたが、松本コーチからヒントをいただき、ビレイをすることができます。



（写真提供 森本 覚）

山頂近くのスラブではエイト環を使ってのクライムダウンを習いました。エイト環は初めて触りましたが、シンプル過ぎる器具で、「これで確保できるんだ～」と驚きました。ただ慣れていないので、うまく操作できませんでした。後日、久保田さんからのメールにあったように、「（各器具は）メリット、デメリットがあるので使う道具の特性やロープ径との相性を把握し、安全なところでよく練習する」ことが大事だなと感じました。

下山は登りと同じルートを降りました。岩場続きなので登りとは違った緊張感でしたが、慎重に降りました。傾斜がきつい個所では懸垂下降で降りました。懸垂下降はこのスクールで初回から練習しているため、受講生は皆、落ち着いて安全に降りることができました。

講座から数日後、森本さんからメールをいただきました。内容は今回の講習をフォローするもので、復習に大変役立ちました。その中で使用テキスト「クライマーのためのロープワーク入門」の話がありましたが、これはコーチ方の声を受けて何度も改版が進められていることを知りました。ありがたく思うと同時に、講習を通じてロープワークが好きになった私は最新版（Vol. 10?）を見てみたいと思いました。

今回の講習もコーチ陣の熱心なご指導とこれまでに習ったことの実践で、とても充実していました。講習も残すところあと1回になり寂しいですが、しっかりと復習と予習をして臨みたいと思います。

感想文②

高橋 和仁

岩渕山、これまで二回順延となり三度目の正直となるか当日までわかりませんでした。どうなるのだろうと不安とワクワクな思いが入り混じりながら集合場所に向かいました。最新の天気予報、雨雲レーダーと実際の空模様を見ながら山に入る判断、カッパスタートとはなりましたが、いよいよ始まります。

3班に分かれての実習とのこと、私は1班、先発隊でフィックスロープを工作する役割、これやりたかったヤツです。岩場のとりつきまで汗をかきながら高度

を上げます。

いよいよ、フィックスロープを仕込んでいきます。スタートは立木にボーライン+オーバーハンド、支点は固定ということでクロープヒッチ、バタフライノットを立木や岩にスリングを掛けた先のカラビナに施していきます。

最後はオーバーハンド+カラビナロックで緩くロープを張って完成です。

ロープの流れを意識し、進行方向の右、左どちらかにできるだけ統一するなどのポイントを教わりました。ルート周辺の状況を見ながら、ロープを出すか、どこに支点をとるか、どこでピッチを切るか、これらはやはり経験を積んで習熟度を上げるしかないと感じました。

1班メンバー4人全員がフィックスロープを張ったところで、次の壁をセカンド引き上げ実習。セルフは自分のPAS等でとり、引上げロープを繰り返し使用する手順でメンバー、スタッフの計6名が壁を上りました。ここはスピードを意識し、自分の番が来るまでの段取り、引き上げ時のシステム構築の手際をスムーズかつ正確に行わなければなりません。これも場数を踏まないと、と思うところです。

その後は先に進むか一考があったものの、天気が回復傾向であることもあり、岩場のピークまで進み、そこで休憩後、スラブ斜面（倉元スラブ）をエイト環でのロアダウンと引上げですが、ロープ径8mmということもあり、ロアダウンはロープが想像以上に流れていき制動時の力（握力）をかなり使いました。

そうこうしているうちに、2班、3班も続々と到着し全員で記念撮影後、下山。下山は途中ラッペルを交えながら後続にロープを残してでしたので、ロープ回収で荷物が増えることなく楽に下山させていただきました。

今回の講習は自分の安全登山はもちろんですが、自分以外の安全登山をいかにエスコートできるかを実践でき、個人山行でも場数を重ね応用問題にも対応できるよう力をつけていきたいと思いました。

次回はいよいよ最終回、天気が崩れないことを祈る毎日ですが、引き続きのご指導よろしくお願ひ致します。



（写真提供 久保田 征治）

10. 県民ハイキング岩国山報告

担当 福永 やす子

日時：9月21日（日）10:00—

参加者；一般5名、岳連会員25名、合計30名
行程・スケジュール

10:00 西岩国駅横広場・受付

10:20 開会式・説明・ストレッチ他



縦走

13:40 椎尾八幡神社（宮司の説明）

13:50 椎尾八幡神社で解散。

現地で解散後錦帯橋他自由散策

反省・感想

早朝からJRの倒木等で普通となり現地に行けない一般参加者もあり当面岩国駅迄きてもうら事で連絡し、岩国駅に松井（秀）さんに待機してもらい、西岩国への誘導をお願いした。県民ハイキング岩国山のライングループを作成していたのでお互い情報を共有出来て良かったとの意見があった。

鉄塔での食事&揃って記念撮影も出来た。椎尾八幡神社では宮司から正装で説明を受けた。松井普及部長の閉会挨拶で無事に終了し現地で解散。

また、山田会長は進んで現地に車でスタンバイし岳連事務局の仕事をしてもらって大変助かりました。

椎尾八幡神社への下山途中で休憩を取りましたが、最後尾の連絡が上手く行かず大変な思いをされて申し訳かったです。これにこりず以後も参加される事を希望します

皆さんの協力で無事に終えて感謝いたします。ありがとうございました。



県民ハイキング高増山報告

副会長 大田祐介

日時：10月18日（土）10:00—

参加者：一般3名、岳連会員46名、合計46名

実施概要

8時役員ふれ愛ランドに集合、受付、駐車場誘導に分かれ、準備をしました。アマノフーズの協賛をいただき、参加者全員に5食分の協賛品を渡し、参加費500円の元が取れました。

9時に開会式開催、越智福山山岳会会長と普及部の松井さんより挨拶、コース概要を福山の佐藤より説明、準備運動（ジュニア部担当）をし、グループごとに出発。登山口まで約4kmの林道歩きでしたが、それほど苦にならず登山口の弘法の水に到着。弘法大師伝説を聞きながら小休止と集合写真を撮りました。

ここから登山道、鞆の遊郭から逃げた女郎が斬られたという女郎塚を通過すると、福山山岳会が架橋した鉄橋を渡るなど、随所にロープ、道標が整備されており、登山道整備の苦労が参加者に伝わったと思います。

俄峠で小休止、ここから急登となりやや渋滞して予定のコースタイムより遅れることとなった。ここもお助けロープがダブルで張ってあり、大いに助かりました。頂上到着が予定の30分遅れの12時30分、頂上が狭いので分散して昼食を取りました。シャインマスカットの房を回すと、どこかで品切れになつた様子で戻つてしまませんでした。

13時30分頂上出発、登山道はきれいに草刈りがされ、快適でした。また、キノコがたくさん見られ楽しめました。14時20分、下山口の長者原に到着、山田岳連会長が出迎えてくれました。ここから車道を2km歩き、15時にゴールのふれ愛ランドのキャンプ場に到着、閉会式後、15時30分に解散しました。

気づいた点

参加者の約8割が福山山岳会の会員であり、当会が主体となって募集すればもっと集まると思いました。トイレが弘法の水にしか無かった、林道歩きが長かったです。

今後の提案

閉会式後に福山山岳会のみの交流会（BBQ）をしましたが、大いに盛り上りました。県民ハイキングとしても開催できれば良いと感じました。



10. 岳連短信

1. 寄贈御礼

- (10/21) 三原山の会『筆影』No. 548 (11月号)
- (11/01) 福山山岳会『会報』11月号
- (10/19) 広島やまびこ会『やまびこ』826 (10月号)
- (11/01) 広島山稜会『峠通信』796 (10月号)

2. 10月～11月の行事予定（実施済も含む）

- 10/18（土）県民ハイキング（高増山）福山山岳会担当
- 10/22（水）新イベント検討会
- 10/25-27（土-月）JMSCA全日大会（神戸市立自然の家）→参加せず
- 10/29（水）全員協議会（西区民文化センター）
- 11/11（火）県民ハイキング調整会議
- 11/23（日）県民ハイキング（安芸小富士）チームありんこ担当
- 11/26（水）新イベント検討会
- 11/29（土）HIROSHIMAベルコンペ2025（ピュアグリーン）
- 12/04（木）日韓親善協会のタベ（リーガロイヤルホテル）
- 12/05（金）高体連顧問研修会
- 12/10（水）第9回運営会議

編集部より

- この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。
- 会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。隨時紹介します。
- この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。